

【串間中学校での授業公開】	【福島高等学校の授業公開】	【教職員合同の研修会等】
○串間中学校を会場に授業公開を行っています。小学校・高校の教員が全員参加します。	○福島高等学校を会場に授業公開を行っています。小・中の教員が全員参加します。	○授業力向上のための研修会 防災教育（H27）・ICT教育（H28） などの授業力向上セミナー等
【教育研究所による研究実践】	【串間市独自の学力調査の実施】	【資質向上のための教育講演会】
○授業公開 （「kushima版 アクティブラーニング」等） ○研究成果報告会	○児童生徒の実態を把握するために、NRTやCRT等、学力調査を実施し、各校での学力向上に役立てています。	○学習指導要領の改訂の趣旨、アクティブラーニング、特別支援教育など、教育課題に取り組むための理解を深めています。

Q & A 連携型中高一貫教育校とは、どのようなしくみで、どんなことをするのですか？

◆ 連携型中高一貫教育の教育理念

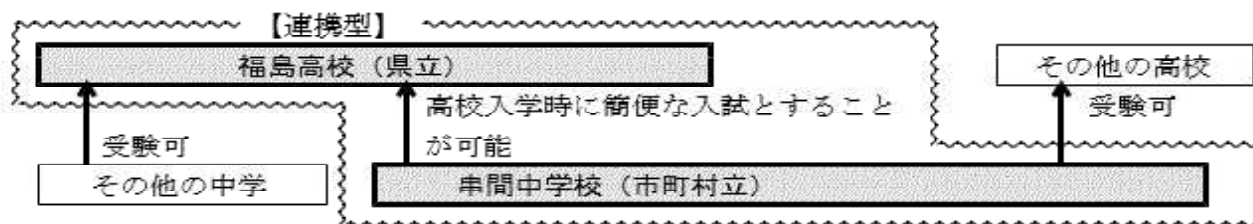
「郷土を愛し、夢や志の実現に向けて、挑戦する人と応援する学校」

中高連携による6年間の一貫した教育活動を通じて、グローバル社会を生き抜く確かな学力と豊かな人間力を身につけ、郷土を愛し、夢や志に向けて努力する逞しい人材を育成します。

平成29年4月、串間市内の6中学校の再編統合により新設した串間市立串間中学校は、串間市にある唯一の高等学校である福島高等学校と宮崎県で最初の連携型中高一貫教育をスタートさせました。

連携型中高一貫教育では、学力の向上、キャリア教育の充実、部活動・特別活動等の充実を、中高連携の3つの柱として、中学校・高校の相互乗り入れ授業や中高一貫したキャリア教育の実施、さらには、中高合同での部活動や特別活動の実施など**中高6年間を通じた特色のある教育活動を展開**します。

◆ 連携型中高一貫教育のしくみ



設置主体	中学校と高校の設置者が別
入 試	高校推薦入学者選抜検査と同じ日程で連携型入試を実施
進 学	連携中学校から他の高校へ、他の中学校から連携高校への受験が可能



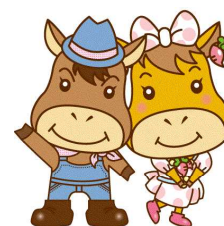
串間市教育委員会 学校政策課

〒888-8555

宮崎県串間市大字西方5550番地

TEL (0987) 72-1111 (代表)

FAX (0987) 71-1015



平成30年度

串間市小中高一貫教育

～大きな夢！高い志！優れた知性と郷土を愛する心を育む串間ならではの貫教育～

平成20年度から始まった串間市の小中高一貫教育は、本年度で11年目を迎えました。串間市が進める小中高一貫教育の方針や取組等について紹介します。

1 串間市の小中高一貫教育の目標と推進体制

【小中高一貫教育の目標】

- 学力の向上
- 地域に貢献できる人材の育成

【一貫教育の推進】

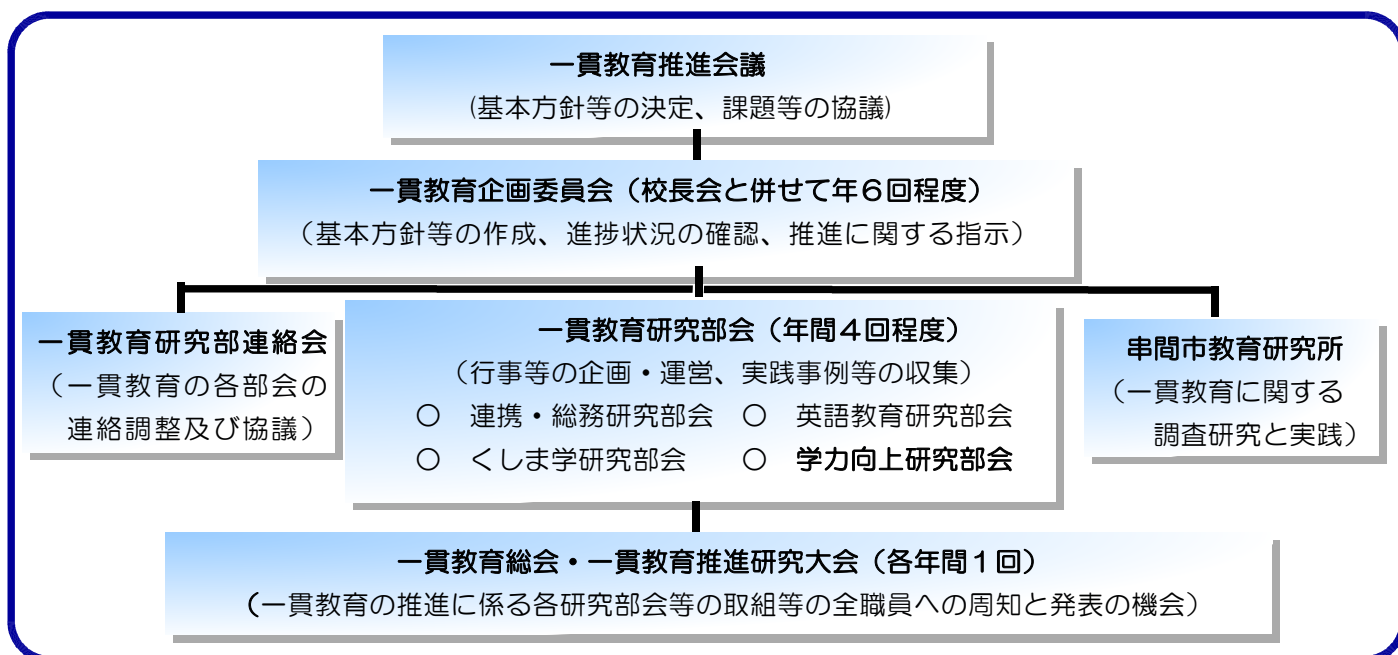
小中学校の「くしま学」・高等学校での「地域創生学」等、串間市独自の教育内容の展開と児童・生徒の学力向上に向けて、「一貫教育推進会議」のもとで、各学校種間の連携と充実を図っていきます。

【資質向上の推進】

串間市の貫教育では、日頃の授業がもっとも大切だと考えています。授業力向上を目指して、教育研究所による実践的な研究の実施や各種の質の高い研修会を開催する等の充実を図っていきます。

(1) 串間市小中高一貫教育の組織体制（平成30年度）

串間市では一貫教育を推進するために、下の図のような組織を設けています。校種の垣根を越えて、各部会や推進研究大会には全教職員が参加しています。



(2) 一貫教育推進研究大会 【研究発表の様子】

平成29年度より、串間中学校を会場に、小学校、中学校、高等学校の職員が一堂にかいして、授業公開や各部会の研究内容の発表を行っています。教職員は自分が所属する部会以外の発表を聞くことで、一貫教育の部会の取組等を理解し、今後の取組に生かすようにしています。



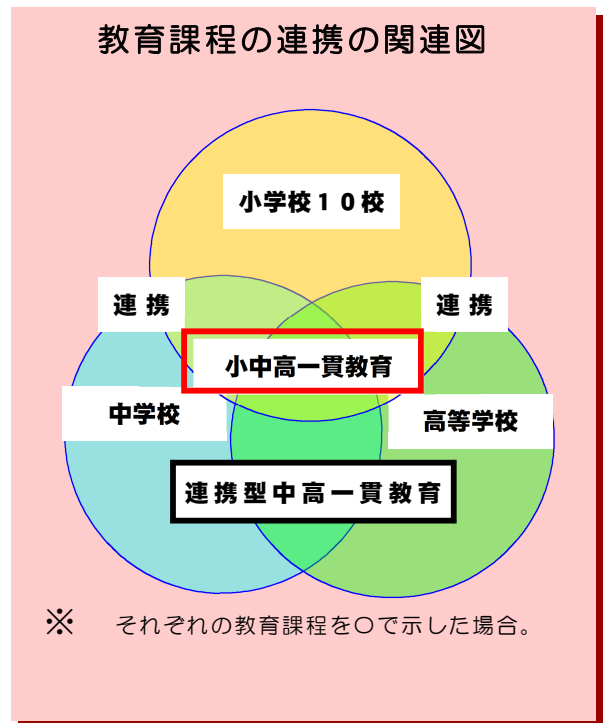
部 会	平成29年度の研究発表の内容等
小中高連携・総務研究部会	一貫教育評価アンケート実施・集約・分析、「家庭学習の手引き・すすめ」について等、メディア教育の推進「ノーマディアからメディア・コントロールへ」リーフレット作成・配付（平成29年12月）
くしま学研究部会	各学校区ごとの地域素材（人・もの・こと）（キャリア教育との関連・整理）「くしま学ウォークラリー」・「くしま学カルタ大会」の企画・実施。
英語教育研究部会	「クラスルームイングリッシュ」一覧表、「CAN DO リスト」作成・実施、各校の授業実践の紹介 等
学習指導方法研究部会	kushima 版アクティブラーニング研究実践、研究授業6年 算数科「比とその利用」基礎基本の定着（漢字テストの計画・実施：小学校）、「中学校、高校までの基礎基本の徹底事項の確認：中学校、高校」

2 串間市の小中高一貫教育の特色

(1) 小中高の縦と横の教育課程の連携

市内の小学校11校、中学校6校、高等学校1校の18校ではじまった串間市の小中高一貫教育も、平成28年には笠祇小学校が休校となり、平成29年には市内6中学校が串間中学校1校となりましたが、串間中学校と福島高校の県内初の連携型中高一貫校も設置されました。

このような中で、新たな推進体制を構築し、串間市の小中高一貫教育の充実に取り組んでいます。串間市では、小・中・高の学校種を超えた縦の連携や小学校間の横の連携を通して、地域に根ざした独自の教育活動を展開することで、児童生徒の夢や希望の実現に向けて、「学力の向上」と「地域に貢献できる人材の育成」を図っています。



3 特色のある取組や行事 等

串間市では小小連携や小中連携、中高連携など校種の垣根を越えて、連携型の一貫教育を行っています。

① 横の連携

中学校への進学を見据えて、小学校間で連携して教育活動を行ったり、小学校の児童が中学校に登校し、中学校で一日勉強する取組も行われています。

<p>小・小連携による交流学習 (市木小学習発表)</p>	<p>中学校での6年生の合同学習</p>
<p>市木小学校と大東小学校</p>	<p>各小学校の6年生児童</p>
<p>学習発表や鑑賞教室等の機会に、他の小学校との交流を通して、友達づくりやコミュニケーション力の向上に取り組んでいます。</p>	<p>8月に、串間中学校を会場に、全ての小学校6年生が授業を通して、中1ギャップの解消や緩和に努めます。</p>

② 縦の連携

串間市の小中高一貫教育では、小学校・中学校・高校の児童生徒が、「くしま学」の一貫として、校種を超えてともに活動したり、交流したりする次のような特色のある行事や取組を行っています。

<p>くしま学ウォークラリー (11月中旬)</p>	<p>くしま学カルタ大会 (1月5日) 会場：旧吉松住宅</p>
<p>小学校5年生、 中学校1年生、 高校1年生</p>	<p>各小・中・高等学校の代表児童生徒</p>
<p>11月に、旧中学校の6つの地区で小学生、中学生、高校生と一緒に協力しながら交流を深めます。</p>	<p>1月に、トーナメント方式で実施しています。毎年、白熱した熱戦が繰り広げられています。</p>

4 教職員の資質向上を目指して

串間市の一貫教育の大きな目標の一つは、「学力の向上」です。一貫教育の中で、学力の向上を図るには、教職員が、児童生徒の実態を踏まえ、小中高の系統性を意識しながら、責任をもって指導することが重要であり、日頃の授業の積み重ねがもっとも大切だと考えています。そのために、教職員も、授業公開や授業力向上のための研修会を合同で行うなど交流と研鑽を図っています。また、串間市では、教師の授業力向上・資質向上を支援するために、次のようなことにも取り組んでいます。

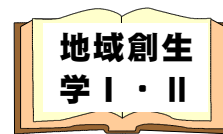
(2) 特色のある教育内容

地域の教材や教育課程特例校の制度を生かした学習活動に取り組んでいます。小・中学校では「総合的な学習の時間」に地域を教材にした「くしま学」に取り組み、串間を愛する心と自信や誇りをもって串間を語れる児童生徒の育成に取り組んでいます。さらに、高校では「くしま学」を発展させた「地域創生学」という独自の教育内容を学校設定科目として設定して、一人一人の夢や志の実現につなげています。

①串間独自の教育内容 地域を教材とした学習活動



体験活動サポートのためにバスの確保や講師を派遣しています。



「くしま学」では、探究的な学習を重視しています。小学校3年生から中学校3年生まで9年間をかけて、身近な地域や串間のよさを体験しながら、串間を知り、誇りをもって串間を語れるよう深く学んでいきます。

高校の学校設定科目「地域創生学」では、「くしま学」での学びを踏まえ、串間市の活性化のために、自分たちにできることを考え、様々な団体と連携・協働して自分たちのアイデアの実現を目指します。

キャリア教育の充実

「くしま学」や「地域創生学」の学びは、小中高の教育課程の連携による意図的・計画的な教育活動の展開を通して、地域や串間の人々との関わりの中で、社会的・職業的自立に向けて、くしまを愛する心と自信や誇り、逞しい人間力を育みます。小中高の一貫教育の中で、キャリア教育の充実を図ることで、将来にわたって、地域に貢献できる人材を育てます。

②串間独自の教育内容 教育課程の特例を生かした学習活動



臨海部の小学校では、地域の特色を生かして、教育課程の特例により「海洋教育科」に取り組んでいます。また、山間部の小学校と交流学習を行いながら、友達とのコミュニケーション能力や社会で活躍するための基礎を身に付けています。

中学校では、教育課程の特例により「英語表現科」に取り組んでいます。また、ALTと協力しながら、小・中・高での乗り入れ授業で、コミュニケーション能力や国際社会で活躍するための基礎を身に付けています。

現在4つの小学校が、文部科学省の教育課程特例制度や日本財団の海洋教育パイオニアスクール等を活用し、活動の充実を図っています。

英語教育の推進のために、市費による常勤講師や非常勤講師、ALTを配置して充実を図っています。

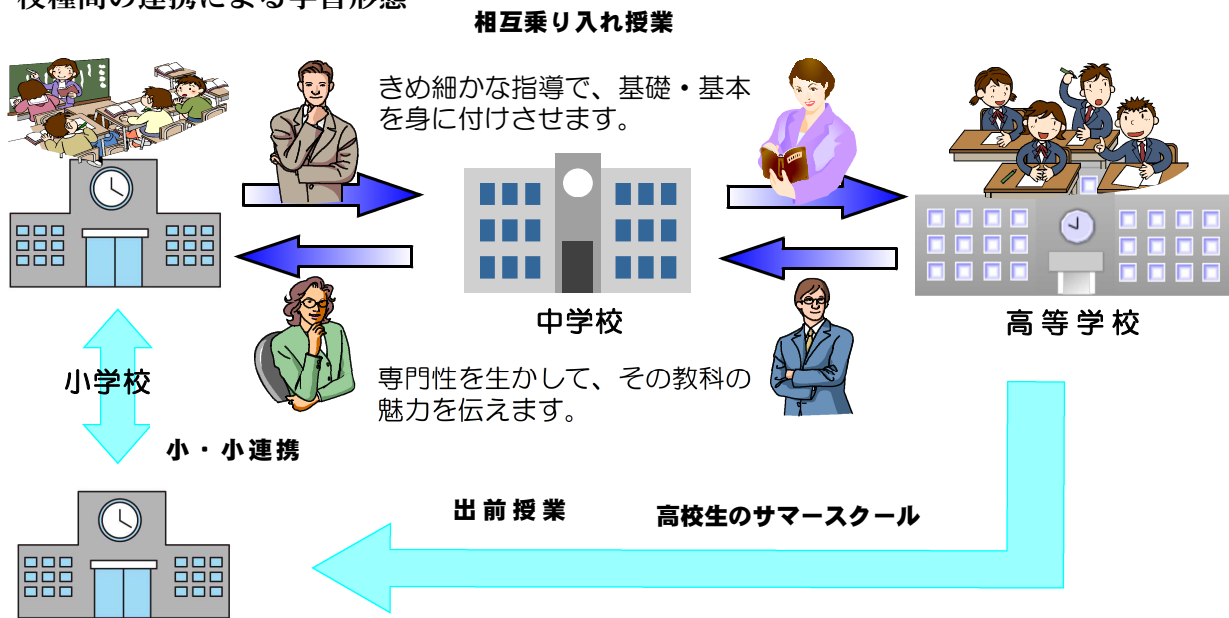
資格・検定への取組

これからの社会を生き抜く基盤となる学力の基礎として、日本語検定（小4～中3）、英語検定（中1～中3）に取り組めます。高校でも各種検定試験に取り組み、進学や就職に生かします。（市費負担）

(3) 特色のある学習形態

中・高での相互乗り入れ授業により、個人差の大きい「数学科」「英語科」等の教科では、基礎学力の向上を図っています。中学校・高等学校の教諭の高い専門性を生かして小学校や中学校の児童生徒の興味関心や学習意欲の向上にも取り組んでいます。

◆ 校種間の連携による学習形態



交流学习・集合学習・合同学習

小学校では、市内の小中学校との交流学习の機会を積極的に設けています。新学習指導要領に示された「主体的・対話的で、深い学び」を実現を図っています。

特に、6年生は中学校での合同学習を通して、学習への意欲を高めたり、交流による友達づくりなど中学校でのスタートをスムーズに行えるようしています。

他にも「くしま学」や「海洋教育科」での学校間の交流学习や ICT を活用した、テレビ会議システムによる学習発表等にも取り組んでいます。

交流学习や体験活動をサポートするためにバスの利用など移動手段の確保を支援しています。

相互乗り入れ授業

小・中・高の先生方が、お互いの授業に参加する取組を進めています。(相互乗り入れ授業)

例えば、小学校から中学校へ、中学校から高等学校への乗り入れ授業は、つまりいている生徒に学習内容を丁寧に指導することによって、基礎基本の定着に役立ちます。また、中学校や高等学校の先生が小学校や中学校の授業に入り、教科の専門的な力を発揮することで、子どもたちの学習に対する興味関心や学ぶ意欲を高めます。

連携型中高一貫教育校となり、中学校3年生と高等学校1年生では、英語と数学の時間に毎週乗り入れ授業を行い基礎学力の向上に取り組んでいます。

- ※ 集合学習とは、近隣の2校以上の児童生徒が1カ所に集まり、各学校の教師の協力によって、学習する形態をいう。(「複式学級を有する学校のために」宮崎県教育委員会より)
- ※ 交流学习とは、児童生徒間の交流をねらいに、授業や学校の行事等の機会を利用して、近隣の2校以上の児童生徒が1カ所に集まり学習する形態をいう。
- ※ 合同学習とは、平成29年から中学校への進学に向けた児童や保護者の不安解消をねらいに、全ての小学校の当該学年を対象に実施し、学習する形態をいう。(平成29年度より、小学校6年生を対象に串間中学校で実施。)